

自然と芸術の空間共存



陶の杜にある陶芸作品の千羽雀

里山の紅葉も色づき始め、気分転換を兼ねて茨城県笠間市の笠間芸術の森公園を訪れた。

1992年5月に開園。段階的に整備され、現在は約36畝という広大な敷地内に、県

理課の野村美幸さん(33)は「利

用者の半数は県外です。関東近郊の方が多く、

年間を通じて楽しめるのが魅力です」と話す。

陶芸の里だけに関連施設は充実。近代から現代に至る作品展示をはじめ、笠間焼の歴史や技法を紹介する県陶芸美術館のほか、笠間焼の作家紹介やろくろ、手びねりなどを体験できる「工芸の丘」も人気だ。

ヒノキの森には、自然の地形をそのまま生かした陶造形作家による17作品を展示。和やかなツバメ群や、たたくと音を奏でる陶楽器など、土を自由に操る魔術師たちが創作した作品の数々に、時間のた



工芸の丘にある登り窯

や全長160級のロング滑り台から歓声が絶えない。孫の和貴ちゃん(4)と訪れた同県筑西市海老ヶ島、北岡昭忠さん(73)は「とにかく広い。理想的な公園」と笑顔を見せる。

歩いていると、ハート形のモニュメントを発見。よく見ると、全国で100番目、茨城県で初めてというロマンチックなスポット「恋人の聖地」だった。

笠間観光協会によると、公園内では12日まで「笠間浪漫」秋の笠間大陶器市、近くの笠間稲荷神社で

は108回を数える「菊まつり」が17日から11月23日まで開かれ